

令和5年度社会福祉法人ないえ福祉会 事業報告

昨年度末から令和5年度初めにかけて新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生し、理事会を书面開催にするなどの影響を受けましたが、令和5年5月8日以降感染症法上の位置付けが変更され、利用者の生活なども徐々に日常を取り戻してきました。位置付けが変更されても感染症が発生すれば集団感染となるリスクが高いため、対策を講じながらの事業運営でしたが、5年度については大きな影響を受けず一年を送れたように思います。

設備面では計画通り暖房配管の改修工事、建物のメンテナンス、公用車の更新などを進めることができました。年度途中に取引先銀行からの提案で、インターネットバンキングを導入し、新たな勤怠管理システム、販売管理システムも導入するなど、時代の変化に合わせた業務省力化が進んだ一年となりました。

人材面では、役職者の退職に伴い、年度途中での人事異動など動きの多い一年となりましたが、各事業への影響も最小限で職員の確保についても補充ができています。

① 障がい者支援施設ないえ

生活介護では7月に短期入所利用者が活動に加わり増員となりました。少しずつ外出の機会も増え、夏は浦臼のキャンプ場で焼き肉を食べ自然の中でのんびり過ごし、秋は交流ホームでゲームやカラオケを楽しみ、小学生とのジャガイモプロジェクトもコロナ禍前に近い形で開催するなど活動の幅が広がりました。また、毎年取り組んでいるカレンダー作りも利用者の個性溢れる豊かな色彩に温かみがあると喜ばれ、年々部数を増やしています。

12月に新型コロナウイルス感染症が流行し、利用者6名と職員2名が感染しましたが、感染拡大には至らず、皆さん軽症で済み安堵しました。必要に応じて講習会を開き知識と技術を高めて対応しました。

入所支援では昨年度から会議を重ね、利用者の負担軽減と、高齢化、重度化に適應できるよう男子指導室を改装工事し、シャワー室やトイレ・洗面台を完備した居室が完成しました。

個別の外出や外食、地域交流の機会が増えて、利用者の笑顔がより輝いてきたように思います。

コロナ禍でも工夫して継続してきた救命講習は、今年は消防の協力を得て実践の講習会を全員受けることができました。高齢化が進み認知症と診断される方も増え、介護技術向上への取り組みを進めました。

短期入所では、コロナ禍の事業縮小の影響もあり、今年度も変わらず利用率は低いままですが、6月に男性の長期利用の受け入れや、怪我で一時的に夜間も支援が必要なグループホームの方の利用がありました。

② 就労支援センターすまっしゅ

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となって、日常生活を取り戻す

べく活動の幅を広げ、大きな感染もなく穏やかな一年だったと感じます。少しずつバザーやイベントへの出店、対面での販売の機会も増え、たくさんの方と交流ができました。10月の日帰り旅行は、数年ぶりに大型バスを貸し切って札幌プリンスホテルまで出かけランチを楽しみました。3月には砂川のeスポーツスタジアムを貸し切ってゲームで盛り上がり、普段から椎茸を納品させていただいている居酒屋の料理を食べて愉快的な一年の締めくくりとなりました。

秋に利用者1名の転倒による骨折がありました。令和6年度に向け高齢化に対応した作業形態の見直しを進めています。

10月から始まったインボイス制度に対応し、IT導入支援事業費補助金を受けて販売管理システムとみみずくのPOSレジを導入したことで、売り上げ状況や在庫情報がリアルタイムに把握でき、大きな業務省力化につながっています。11月には予定外の人事異動で体制が大きく変わりましたが、職員間で連携して迅速に新しい体制作りを進めることができたと思います。

就労継続支援B型の椎茸作業では、秋に培養室のストーブ二台が壊れ、規模に見合った機種に更新しました。夏は猛暑の影響を受けて椎茸の収穫量が下がりましたが、その後は回復して順調に売り上げ、年度末にはボーナスを支給しています。6年度は報酬を一区区分上げられる業績となりました。

洗濯作業では、故障した業務用洗濯機に替えて、経費を抑えて大型の家庭用洗濯機二台を購入しましたが、メンテナンスもしやすく作業も順調です。

就労移行支援では利用者2名のうち1名が就職、1名が利用期間満了でB型へとサービス変更したため、4月からは新しいメンバーでのスタートとなります。みみずくは備品を更新し、より居心地がよく作業しやすい空間となりました。

就労定着支援の職場定着率も100%と順調です。

③ 共同生活援助みどり荘

共同生活援助は、6月末に在宅酸素療法が必要となった男性入居者がサービスを変更し退居した他、病状の不安定により1名が長期入院中、他にも手術や検査、治療で入院が必要となるケースが複数あり、事業経営も含め余裕のない一年となりました。

新規入居者については、4月に高等養護学校の卒業生を迎えました。入居に関する問い合わせは他にも数件あり見学も積極的に受け入れましたが、お持ちの疾患への対応が難しい体制、タイミングの不一致、物理的な課題等で残念ながら入居には至りませんでした。

5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症となって以降も感染症はホーム単位で流行しましたが、経験からスキルやチーム力を高めて対応しました。現在は活動の範囲、意欲と共に筋力も少しずつアップし、公共交通機関を利用して外出を楽しむ姿を多く見るようになりました。忘れかけた刺激的な外出を楽しもう、楽しんでいただこうと目を輝かせる春を迎えています。

ホームのメンテナンスについては、屋根塗装やワックス掛けを実施しました。

職員の確保については、やはり難しい状況が続きました。高齢者も活躍する素敵な現場

ですが、離脱や罹患が相次ぎ、日々緊張が高まります。折角良いお話があっても事業経営を考えるとタイミングによっては抱えられない悩ましいケースもあり、現場との日々のコミュニケーションの大切さを実感しました。

④ サポートセンターぽすと

8月に車輛の入替を完了し、9月には福祉有償運送の更新手続きを終え、安全に安心してサービスが提供できるよう整え、5年度も事業運営は順調でした。

利用者の状況に大きな変化はありませんでしたが、年々見守り支援から部分的な介助、介護へと必要とするサポートの内容は変化し、一人一人に見合ったサービス、受給量となるようアドバイスや関係機関との調整、必要な手続きのサポートをしました。希望する生活が長く続けられるように頑張る利用者の姿に感心したり、そろそろ難しいと不安を感じたり、まだできると激励したり、暮らしの変化を一緒に楽しみながら過ごす日々でした。

新規利用者については、相談支援事業所からの問い合わせが多く、そのほとんどが一時的または不定期の利用希望であり、規模的になかなか対応できない状況にあります。また、新規で受け入れても、当日にキャンセルとなるケースが目立ち、継続的な利用には至らずという現状です。

現在はニーズの多い移動支援サービスの提供が主となり、新型コロナウイルスが5類感染症になってからは積極的に外出の支援をしています。行動自粛による著しい筋力の低下もあり、運動を中心としてウォーキング、プール、日光浴、カラオケ、イベント参加からグルメツアーまで幅広く活動しました。一緒に記憶を辿り、どんなことをしたいか、喜んでいただけるか考えながら、少しずつ普通の毎日を取り戻しています。